

公益法人移行第8期(令和5年度) 事業報告

自 2023年4月1日 至 2024年3月31日

公益社団法人知財経営協会 (SIR)

1. 活動総括

日本の国際競争力低下は、ゆでガエルの様に進み主要競争力指標は50年前の様相、人口比3割も少ないドイツに抜かれ世界第4位に陥落して歯止めかからず。これは、知識経済社会における価値の源泉である知財・無形資産マネジメントの沈滞、不正行為の横行、人工知能(AI)等の先端技術の遅れが企業・大学・行政に及んでいる証左、特に知財活用(知財利益化)への取組みが急務であることが明らかになってきた。

一方、協会の抱える課題は、協会の認知度向上、会員及び知財登録増並びに知財コード活用検証等にあるところ、人的・財務的リソース面の活動制約がある中で、今後大胆な先導・覚醒的事例創造活動の継続が必要である。

2. 重点取組結果

(1) 知財に関する調査研究啓発事業(公益目的事業:公1)

業務執行理事(理事長)が中心になって下記を実施した。

【知財調査研究事業】

- ① 東京、大阪、岡山、松山等の会員、大学、商工会等を訪問し知財経営調査を実施。
- ② 米国及びAI会員企業のベトナムに出張、AIの知財応用、文化発明の保護活用及び知財侵害権利行使状況を視察。非出願知財の収益化、AIの知財応用及び文化発明の保護活用はスタート段階で、関係弁護士専門家等と協力して取り組みたい。
- ③ 会員企業を対象に知財(無形資産)マネジメントの事例研究を継続し、知財規程及び価値評価表を策定、事業収益の知財比率目標と実現方策について推進中。
- ④ 協会定款第3条にある研究不正防止の観点から、会員企業に係る阪大産学連携等案件を事例にして知財研究不正調査を協会関係者と行い、再発防止を当局に通告。
- ⑤ 主に不競法をテーマにする春季知財経営研究会を協会事務所で4月27日に実施。
- ⑥ 特定業界向けAI応用知財侵害調査サービスのデモ版を会員企業と開発中。

【知財啓発事業】

- ⑦ 秋季公開知財セミナー『パラダイムシフトの発想2023』を10月26日に開催。参加者400余名あったが会員増に直結していない課題あり。
- ⑧ 毎号3万部発行の知財情報誌『創』40号に理事長論文掲載(今後毎年1回発刊)。

(2) 知財情報の登録保護活用事業(その他事業:他1)

知財登録システムの改良及び知財預かり(IPバンク)サービス等の仕様策定。

(3) 協会事業基盤確立のための特記事項

会員増のための予備的調査継続、中小基盤整備機構近畿との連携検討実施。

3. 事業監査結果

4月1日監事による事業監査を受け適正との報告。(資料K1) (以上)